

朝日新聞 聞藏Ⅱ 中文操作手冊



紀伊國屋書店

簡易検索

朝日新聞基本操作介面

檢索區塊不同, 介面有所不同

檢索大分類:
第一區塊: 朝日新聞1985起
雜誌: 1.週刊朝日
2.AERA
第二區塊: 明治、大正、昭和1984年前縮刷版報紙
第三區塊: 年報: 知惠藏
第四區塊: 人物
第五區塊: 戰前期歷史照片

代理店: 紀伊國屋書店

朝日新聞 聞蔵Ⅱ 中文操作手冊

1984年以前報紙,含明治,大正,昭和戦前,昭和戦後1946~1948年縮刷版

新聞摘要

新聞本文

新聞標題

総件数: 12155件 通し番号: 1 ~ 50

No.	発行日	社/14種	ページ	掲載位置	記事種別	表紙情報	紙面イメージ
00001	1915年11月5日	東京/朝日	5頁	9段	記事	◆表紙評価	
00002	1925年3月7日	東京/朝日	3頁	4段	記事	◆表紙評価	
00003	1925年8月21日	東京/朝日	2頁	7段	記事	◆表紙評価	
00004	1925年8月28日	東京/朝日	3頁	4段	記事	◆表紙評価	
00005	1925年8月29日	東京/朝日	2頁	11段	記事	◆表紙評価	
00006	1925年8月30日	東京/夕刊	1頁	3段	記事	◆表紙評価	
	925年9月2日	東京/朝日	3頁	7段	記事	◆表紙評価	

代理店: 紀伊國屋書店

1984年以前報紙,含明治,大正,昭和戦前,昭和戦後1946~1948年縮刷版

新聞摘要

新聞本文

新聞標題

総件数: 12155件 通し番号: 1 ~ 50

No.	発行日	社/14種	ページ	掲載位置	記事種別	表紙情報	紙面イメージ
00001	1915年11月5日	東京/朝日	5頁	9段	記事	◆表紙評価	
00002	1925年3月7日	東京/朝日	3頁	4段	記事	◆表紙評価	
00003	1925年8月21日	東京/朝日	2頁	7段	記事	◆表紙評価	
00004	1925年8月28日	東京/朝日	3頁	4段	記事	◆表紙評価	
00005	1925年8月29日	東京/朝日	2頁	11段	記事	◆表紙評価	
00006	1925年8月30日	東京/夕刊	1頁	3段	記事	◆表紙評価	
	925年9月2日	東京/朝日	3頁	7段	記事	◆表紙評価	

代理店: 紀伊國屋書店









朝日新聞歴史写真アーカイブ
アジア・戦前戦中編

検索結果詳細
ID: 000002905
分類: 政治 / 社会・人情問題 / 軍人
撮影地: 台湾 / 台中府 /
撮影日: 1928年10月1日
撮影者: 大塚新太郎
写真名: 軍事の可憐
説明:
文中執筆後記: (指平遺書4冊)
ノート:
評価点合計: 47
アイテム番号: P020-030-021

拡大する

100%

代理店: 紀伊國書書店

圖片可放大到與螢幕畫面同寬



朝日新聞歴史写真アーカイブ
アジア・戦前戦中編

ID: 000002905 軍事の可憐

拡大後の照片

100%

代理店: 紀伊國書書店

圖所示為擴大後的圖片可任意放大及縮小

朝日新聞 聞蔵Ⅱ 中文操作手冊

朝日新聞 聞蔵Ⅱ デジタル

検索結果: 1985- 週刊朝日-AEKA

高井 昌史 (たかい・まさし)

氏名	高井 昌史 (たかい・まさし)
性別	紀伊國屋書店代表取締役社長
別名義	紀伊國屋書店専務社長
連絡先住所	(株)紀伊國屋書店秘書室
連絡先住所	〒153-8504 東京都目黒区下目黒3-7-10
連絡先電話	03-6910-0501
経歴	1971年 紀伊國屋書店入社 / 1993年10月 同取締役 / 1999年11月 同専務 / 2004年11月 同専務 / 2006年11月 同専務社長 / 2008年11月 同代表取締役社長
更新日	2010年 08月 05日

1985年後有35500件可提供查詢

代理店:紀伊國屋書店

朝日新聞 聞蔵Ⅱ デジタル

検索結果: 1985- 週刊朝日-AEKA

検索結果: 14件

No.	発行日	朝夕刊	題名	ページ	文字数
00038	2010年11月25日	週刊	遊博朝日	025	01129文字

現役海上保安官が明かした、いま尖閣の海で起きていること 尖閣ビデオ流出事件

海上保安官の関係者によると、尖閣諸島の海域で漁船衝突事件が起きるまでは、ある意味、「平和な海」だったという。現場には一定の「関係者の呼称」があったからだ。

「中国船とは、日本人はあまりトラブルが無く、警告したら綱をあげてすぐ逃げます。彼々も、尖閣に日本人を近づけないのが、ちばんだ大きな仕事で、中国船や台湾船への警告はその次ですからね」

第11管区海上保安本部(那覇市)に勤務する職員はそう語る。カブリ平などの魚群を巡って中国漁船がこの海域に集まってくるのは毎年、コーセ月ごろだった。

「多しときは150隻以上が集まる。漁は夜も続き、一部は中国漁船の4割がてまぶしんほどでした」(海保関係者)

このうち獲物の魚はどが積漁に入ってくる。漁船はレーザーなどで船影を見つけると、領海の外へ出るまで警告を繰り返しながら漁船を追い、かきるといふ。

「たいてい、2隻ほどの漁船が多数の中国漁船です。漁船の周辺は群衆でも、少し離れるとまた入ってくる。警戒の漁船には立ち入り検査をしますが、その間は漁船の船がうて、他の漁船はむしろ安心して領海内に入ろうとするんです」(前出の関係者)

代理店:紀伊國屋書店



